

令和6年度			学 校 評 価 表				(最終評価)				東広島市立入野小学校			
学校教育目標			「夢と志」をもち、主体的に生きる児童の育成				経営理念		ミッション：自分も相手も大切にし、自ら考えて行動することができる児童の育成 ビジョン：信頼される学校づくり					
評価計画							自己評価				改善方策		学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善方策	評価	コメント
							9月	1月						
確かな学力	1	主体的に学ぶ楽しさが味わえる授業づくりをすることで、確かな学力をつける。	☆知識・技能の習得	○ICT機器を効果的に活用した授業を行う。 ○スキルタイムを継続して実施し、児童一人一人に応じた指導を行う。	・NRT、標準学力調査標準スコア（国語・算数）	児童50	国語49.1 算数48.1	国語51.1 算数52.1	102.2% 104.2%	3	○9月は目標値に達していなかったが、1月はいずれも目標値を超えることができた。 ○ペーパーとICTとを目的に応じて使い分け、ICTの効果的な活用を目指して取り組んだことが、児童の学習に成果に繋がったと考える。 ○年間を通して、計画的にスキルタイムを実施し、児童の学習内容の定着を目指した取り組みが効果的だったと考える。	○各学年の学習内容を復習する時間を設け、確実な定着を目指す。その際、個別の指導を徹底する。	A	適切に評価されている。学年によって格差があるものの達成度も良好である。 知識・技能の習得については、「繰り返し復習」に加え、「児童の落ち着いた授業態度の構築」を大切にして継続的に取り組んでいただきたい。
			○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る授業改善	○授業のユニバーサルデザイン化を図り、個別最適な学びと協働的な学びを生かした授業改善を行う。 ○ユネスコスクールとして、SDGsの達成を目指し、地域創生プロジェクトで体験活動を実施するとともに、教育活動全体を通じて表現したくなるような場面設定を行い、表現する機会を設ける。	・授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・自分の地域の良さを表現している。 ・児童が表現したくなるような指導の工夫をしている。	児童85% 児童85% 教職員100%	児童82.8% 児童76.3% 教職員100%	児童76.1% 児童84.9% 教職員100%	89.0% 99.9% 100%	2	○自分から取り組んでいることについては、9月より数値が下がり、目標値を下回った。 ○授業のユニバーサルデザイン化を図ってきたが、各学級間の差が大きく、達成度の低い学年では、教師と一部の児童とのやりとりで授業が進むことが多く、学び合う力が十分に発揮されにくかった。 ○地域の良さの表現については、児童も教職員もほぼ達成できた。 ○各学年で地域の良さに気付かせる体験活動を計画的に実施することができたが、体験活動と運動させた表現活動を行うことに課題が残った。代表して発表をするといった方法ではなく、児童全員に「発表した」という満足感をもたせる必要がある。 ○目標値に対して特に児童の達成度が低かった。	○教職員の意欲は高いので児童一人一人が表現したくなる学習環境や学習方法の工夫について校内研修を重ね、継続して授業改善に取り組んでいく。	A	適切に評価されている。地域のよさ・表現力が高いとの分析は、的確である。 授業のユニバーサルデザイン化について教職員の意欲が高いことは評価したい。これからも校内研修を進め、充実させていきたい。 地域の良さを学習し、表現していくことは大切なことである。表現活動に多様性をもたせると、さらによいと考ええる。
豊かな心	2	自己有用感や社会性を高め、豊かな心を育む。	☆東広島スタンダードの定着	○委員会活動や高学年による活動等において、挨拶レベルの向上のための取組を設定する。 ○全校朝会等で、挨拶等について称賛する。	・あいさつレベル4以上の児童	児童90% 教職員80%	児童79% 教職員72%	児童61.2% 教職員72.5%	68% 90%	1	○目標値に対して、特に児童の達成度が低かった。 ○12月より下校時に生徒指導部担当が順に全校児童の前に立ち、児童の挨拶の様子を肯定的評価してきた。その結果、レベル4以上のあいさつができる児童が明らかに増え、気持ちの良い挨拶を意識している児童が増えた。しかし、そのことを児童は意識できていないと考える。引き続き、達成感を感じさせるよう努める。	○次年度は児童運営委員会等の年間計画に挨拶の取組を位置づけ、継続的に取り組んでいく。あいさつを返す児童は増えたので、自分からあいさつをする児童が増えるよう称賛する取組を継続していく。	A	適切に評価されている。あいさつしていることを十分に褒めて改善していただきたい。
			○自己有用感の向上	○各学級において、お互いを褒め合う場面を定期的に設定する。	・自分の頑張りを認められ、嬉しいと感じたことがある。 ・自分は人の役に立っている。	児童90% 児童90%	児童86% 児童62%	児童87.6% 児童65.3%	97% 73%	2	○「嬉しい」と感じた児童、役に立っていると感じた児童が目標を下回った。ポジティブ行動支援を継続的に取り組んだことにより、「嬉しい」と感じた児童は、目標値に近づいたが、「人の役に立っている」ということまでには至らなかったと考える。	○「自分は人の役に立っている」と感じる場面が増えるように、係活動や委員会活動を活発にし、お互いを褒め合う場面をさらに増やしていく。	A	適切に評価されている。児童の自己有用感を高めるため、保護者とも連携しながら、よい行いをした時にはしっかり褒めていただきたい。
健やかな体	3	基本的生活習慣の定着や健康や安全について理解し、健やかな体をつくる。	☆学習姿勢の意識化	○姿勢を安定させることが健康の保持につながることを学習させ、授業の開始・終了時に意識させる。	・姿勢を安定させることが健康のために大切なことを知っている。 ・立腰を意識し、取り組んでいる。	児童80% 児童80%	児童71.5% 児童42.9%	児童89.8% 児童84.3%	112.3% 105.4%	3	○姿勢の意味や実施については、目標値を上回った。 ○全校朝会で「立腰」について写真のスライドを用いて具体的に指導した。また、その後、各学級でも立腰を意識するよう指導した。これらのことが有効であったと考える。	○次年度も、年度当初や学期初めの全校朝会で具体的な例を挙げて指導し、各学級で同様に指導することにより、姿勢と健康の関係を理解し、立腰を意識していくよう取り組んでいく。	A	適切に評価されている。学習姿勢については、長い時間の習慣が出てきていると考える。継続的で多様な指導を諦めず行っていたいただきたい。また、保護者への啓発や協力の働きかけも重要であると考ええる。
			○運動・外遊びの奨励	○委員会活動を中心に、運動や外遊び奨励の取組を企画・実行するとともに、環境整備を進める。	・運動や外遊びが好きである。	児童90%	児童89.5% 児童91.9%	102.1%	3	○目標値を上回った。昨年度より各学級に配るボールを増量したことや、遊ぶための休憩時間を確保したことにより、児童は広いグラウンドで遊ぶことを楽しんだことにつながったと考える。	○委員会活動で各学級のボールが良好な状態であるように定期的にメンテナンスを行い、いつでも遊ぶことができる状態を保つように取り組む。外遊びを推奨し、遊び方などを紹介していく。	A	適切に評価されている。本来、小学校時代は外遊びが大好きな児童が多い年齢である。行事の参加をきっかけに児童が外遊びをし始めたのはよい傾向である。他学年へも波及するよう、取り組んでほしい。	
信頼される学校	4	教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図り、児童と向き合う時間を確保する。	○保護者や地域に開かれた学校の実現	○保護者対象アンケートを実施し、その都度、改善方策を検討するとともに、学校の様子を保護者や地域に発信する。	・学校は、学校の様子を分かりやすく伝えている。	保護者90%	保護者95%	保護者93.4%	103%	3	○目標値を上回った。学校だよりでは月に1回、ホームページでは1週間に1度以上、学校での様子を伝えてきた。また、地域の方や保護者に機会あるごとにパワーポイント等を用いて児童の様子を伝えた。これらのことが評価が高かった要因だと考える。	○引き続き、児童が取り組んでいる姿を学校だよりやホームページ等で伝えていく。	A	適切に評価されている。情報発信に難しさを感じている。地道に継続していくこと、受け取る側の興味を喚起することなど、工夫しながら取り組んでいただきたい。
			○業務改善の推進	○児童と向き合うための教職員同士の対話を通して、アイデアを共有し、改善意識や同僚性を高める。 ○管理職への報告・連絡・相談を徹底し、スピード感をもって対応する。	・自分が掲げた目標に向かって仕事ができる。 ・児童と向き合う時間（授業準備等含む）が確保できている。	教職員90% 教職員85%	教職員92% 教職員67%	教職員90.0% 教職員70.0%	100% 79.0%	2	○「目標に向かって仕事ができている」は目標値を上回った。日々の教材研究や、生徒指導等、教職員同士で関わり合いながら目標を意識して取り組んだ成果だと考える。 ○「児童と向き合う時間が確保できている」は達成しなかった。日々の業務に追われ、工夫を考えたり、共有したりできなかったことが要因だと考える。	○担当する分掌や生徒指導対応等について同僚と相談することで、早期に提案したり問題を解決したりすることができた。管理職への報告・連絡・相談も徹底して行ってきた。今後も、継続して行うとともに、業務改善や仕事の進め方のよりよい方法を共有する場を設ける	A	適切に評価されている。大変な仕事量だが、職場の人間関係づくりが上手くいけば、楽しく業務が遂行できると考える。同時に、管理職への報告・連絡・相談・結果報告と早めの対応が学校の信頼感を高めると考える。健康に注意しながら頑張っていたきたい。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

- 自己評価
- 4(目標を上回って達成) ≥ 105%

●105% > 3(目標どおりに達成) ≥ 95%

●95% > 2(目標をやや下回って達成) ≥ 70%

●70% > 1(目標をかなり下回って達成)

- 学校関係者評価（学校運営協議会による評価）
- A...とても適切である

B...概ね適切である

C...あまり適切でない

D...全く適切でない

(N...判定できない)